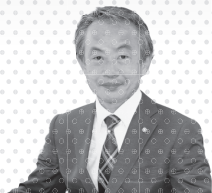


町長発！ “がんばる” トーク

町長 上川 元張



4月の組織改正で、経済産業課の観光商工部門を駅前ビルの2階に移転しました。町の玄関口である駅前で観光客のニーズを適時に把握し、観光協会など関係機関との連携のもので的確な施策立案につなげて、地元経済が潤う観光を目指す狙いです。

コロナが収束して訪日外国人観光客は飛躍的に増え、コロナ前の水準に戻りつつあります。若桜駅前でも台湾人観光客を日常的に見掛けるようになりました。1年後に迫った大阪・関西万博では県内への誘客に力を入れていきますし、再来年には米大手マリ奥特・インターナショナルの高級リゾートホテルが砂丘西側にオープン予定です。近い将来、県東部の観光の流れが大きく変わる可能性があり、観光地図を塗り替えるチャンスでもあります。

旅のスタイルも変わりつつあります。「アドベンチャーツーリズム」といい、旅行者が地域独自の自然や地域のありのままの文化を、地域の方々とともに体験し、旅行者自身の自己変革・成長の実現を目的とする形態です。こうした旅行者には、傾向として富裕層が多く、長期滞在を好み、目的地選定にあたり地域社会の環境保全や地域住民の雇用・所得向上に貢献でき

るかどうかが重視されるようで、その分、質の高い旅行プログラムが求められます。

若桜町は、氷ノ山エリアを始め豊かな自然環境や、若桜鉄道、重伝建の町並み、若桜鬼ヶ城、不動院岩屋堂などの歴史文化の資源にも恵まれています。また、登山、キャンプ、スキーなどの自然体験、ウインナー、そばやおやきなど食品加工体験などアクティビティーも豊富で、未開拓の分野もたくさんあります。これらをうまく組み合わせ、旅行者の嗜好に合った旅行商品が数多く造成できるため、町内の観光産業の伸びしろは大きいと思います。

そのためには、ガイドなど人材の確保育成、表記の多言語化、宿泊機能の整備など受入れの課題も多く、何より観光に携わる事業者や関係機関が目指す方向を共有して連携・協力することが不可欠です。駅前には、観光協会のほか鉄道、商工会、農協、郵便局、特産品グループや道の駅など関係機関が集積しており、観光商工室には旗振り役を期待しています。

なお、移住者の交流スペースは、今後、向かいの農協2階を活用して行う予定です。